

# Bicycle Film Festival Kyoto (バイシクル フィルム フェスティバル 京都)

EVENT

9.6 ~  
(Sat)

## 京都で初開催！世界の自転車乗りをつなく、 自転車映画祭「BFF」。



- 「Bicycle Film Festival kyoto (バイシクル フィルム フェスティバル 京都)」
- 9.6. (Sat)
- 17:00~19:30
- 藤井大丸別館 (京都市下京区綾小路御幸町西入ル)

- 関連イベント
- TRACK HEADS NIGHT トラックヘッズナイト
  - 9.6 (Sat) OPEN/22:00~
  - Lab.Tribe
  - 料金未定

世界17の都市で開催されている自転車映画祭 Bicycle Film Festival (BFF)。ピストブームの火付け役となり、メッセンジャーからMTB、お子様自転車まで、ありとあらゆる自転車を扱った作品が上映されるプログラムは、ふだん接点のない異ジャンルの自転車乗りの交流の場としても楽しまれている。映画祭発祥地N.Y.では5日間の上映になんと数千人が押し寄せる、まさに自転車好きのお祭りなのだ。

ではこのBFF、今回が初お目見え。BFF東京08とはちがうオリジナルプログラムにての上映となる。クールなロードレーサーの映像もあれば、メッセンジャーが競輪ごっこを繰り広げる「Bang-King」(バンキン)のような笑える自転車映画もたくさん。スクリーンの中も外も自転車・愛。会場は、チャリが結ぶ一体感にかな〜り熱くなるはず。夜にはクラブに会場を移してイベントを開催。屋内自転車レースなんかで盛り上がる予定。(沢田盾香子)

意外なことに日本の自転車のメッカ・京都

## TOKYO !

MOVIE

9月  
上旬~

## いやいや、これって、 KYOTO! の間違いですよ?



「世界で最もクールな都市」を舞台に、N.Y.&パリ&ソウルで活躍する3人の監督が新たな日本映画を生み出した。のは、いいとして。「MANGA」「OTAKU」「ZEN」「カワイイ」といった空前の日本ブームがあつてのコラボというのも納得だけでも。その都市がなぜKYOTOちゃうのん?

よくよくタイトル眺みつけつつ、ああ、なるほど、これアナグラムなのね、ふむふむ。と、思っ

そんな不本意かつ斜に構えて拝見した本作品。3作品とも、バリバリメキメキと音を立てて固定観念や先入観を破壊してくれるのには、ほとほと参った。外国人監督がメガホンを取っているのに、日本人の役者をここまで自由に放し飼いにするとは。これぞ、鬼才と呼ばれる必須条件か。その才能、次こそKYOTOで発揮してほしいものだ。

(山田涼子)

- 「TOKYO !」
- 9.月上旬~
- MOVIX京都、他
- 監督/ミシェル・ゴンドリー、レオス・カラックス、ボン・ジュノ 出演/藤谷文子、加瀬亮、ドゥニ・ラヴァン、ジャン=フランソワ・バメル、香川照之、斎藤優、他
- <http://tokyo-movie.jp/>

先月号でも書いたが、僕が一年の中でもっとも、京都が寂しい街だと感じるのがこのお盆の頃だ。京都という街は、世界中でもまれな、「闇」が街のあちこちらに存在する街であるが、その「闇」が心地良くくらくらに深く入り、人ひとりいらないんじゃないかと思うような夜が続く。たぶん、送り火がすんで地蔵盆がくると、餓鬼というのが闇の隅から顔をだし、ほんのりと賑やかな京都が戻ってくるのだ、きっと。

そして、9月の9日には長寿を願い、菊の花からの露(なんていいながら酒なんだけれど)を口に含ませる。そう、軒の鉢も朝顔のような蔓ものから菊のような茎ものへと変わっていく。

なんかそう考えていると、お盆が寂しい頃だと感じているのは、夏が終わって秋がやってきて、何ものも眠ってしまう(ような)冬がくるのが寂しいからじゃないのか? なんて気がしてくる。

今回は、枕にちよつと長々と和歌の世界みたいな話を書いたが、鱧と松茸が同時期にあることも、ふと深い闇に出会う

この号がドロップされている頃は、秋の戻り鱧に脂がのつて、松茸もちよつと顔を出し始める。そう、鱧と松茸が同時に楽しめるわずかな頃だなんて考えながら、五山の送り火を今年はどこから観させてもらいまひよか、と考えている。

街の変化に心を揺さぶられたり、街をシーンごと切り替えたり、そんなダイナミズムを感じに、自転車に乗って京都の街を移動しよう。

肩の力を抜いて、自由に語ろう...、京の街と付き合うというところ。

街場

演算

の

(はいとよい)

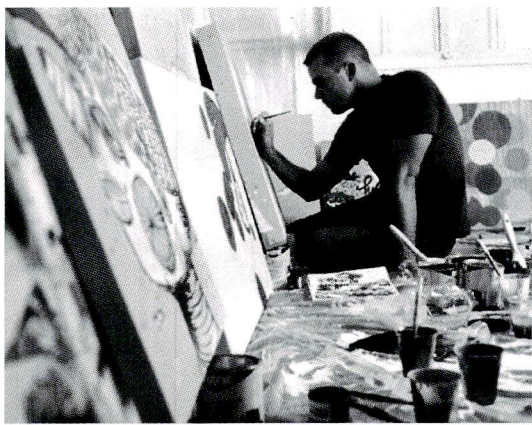
保伊戸宵



MOVIE

9月  
下旬～

ビューティフル・ルーザーズ



©Keith Scharwath

- ビューティフル・ルーザーズ
- 監督/アーロン・ローズ、ヨシア・レナード
- 出演/トーマス・キャンベル、マーク・ゴンザレス、ジョー・ジャクソン他
- 京都みなみ会館
- 9月下旬
- 問い合わせ 075・342・4050 (RCS)

結局アートかどうか、という問題は、  
(積極的に) 横に置いておいて。

これはドキュメンタリーフィルムで、'92年から始まったN.Y.はイーストヴィレッジのギャラリー「アレジッド」に関わったストリート・ライター、ペインターへのインタビューで構成されている。出演者はマイク・ミルズ、ハーモニー・コリンをはじめ今や「LOSERS」?、とのクエスチョンもあると思う。けれど今作には無防備な言葉が次々飛び出してくるのだから注意してほしい。「直感で描く」「集中力と緊張感」「今でもタギングしてコミュニケーションするん

だ」。それらはペプシと契約したライターが今のストリートからのプロップスを計算し発言している様子にはみえない。大胆に言えば、今作はグラフィティ・イズ・ヴァンダリズム(公共破壊)の考えやヒップホップ・カルチャーと一旦切り離れたところ、つまりポスト・グラフィティを旗あげる上での重要な一例として存在する。観賞後は京都の街並、電信柱やゴミ箱に描かれたピース(それは千社札かもしれない)がいきいきと迫ってくることを覚悟して。(中村悠介)



ウィリアム・モリス  
壁紙見本・果実あるいは柘榴(5番)  
1862年(制作1864年)  
© V&A Images/Victoria and Albert Museum  
Given by Morris and Co.



「三國荘」の応接室  
写真提供: アサヒビル大山崎山荘美術館

「生活と芸術-アーツ&クラフツ展」  
ウィリアム・モリスから民芸まで

役に立たず、美しくないものは無用!  
日欧競演・これが「用の美」だ。

「役に立たないもの、美しいと思わないものを、家に置いてはならない」(ウィリアム・モリス)。「ゲッ…置いてちゃいけない物だらけだ…」。

デザイナー、ウィリアム・モリスがこう発言してアーツ&クラフト運動を展開したのは19世紀後半のイギリス。その背景には、大量生産・大量消費時代の幕開けがあった。職人の手仕事が機械化され、生活空間に廉価で味気ないプロダクトが溢れようとしていた。そんな時代にアーツ&クラフツ運動は、ちょっとだけスローな時

代に立ち戻って手仕事や伝統の中に美を見出してみようと呼びかけた。日本ではその思想は柳宗悦が提唱した「民芸」にも通じる。

展覧会ではイギリス、ドイツ、オーストリア、そして日本で、アーツ&クラフツに共鳴して作られた作品を紹介。家具やファブリック、グラフィックデザインなど、「使いやすく、見て美しい」逸品を数々展示。民芸のインテリアデザインの粋を集めた伝説の「三國荘」の室内を再現する展示もあり。(沢田眉香子)

- 「生活と芸術-アーツ&クラフツ展」ウィリアム・モリスから民芸まで
- ～11.9 (Sun)
- 京都国立近代美術館
- 問い合わせ 075-761-9900 (テレホンサービス)

ART

9.13～  
(Sat)

「これも、軒の鉢が蔓ものから草花に変わっていくことも、みんな道すがらに感じる京都である。僕は、そんな道すがらの京都を感じることは、街で仕事をしたり恋をしたり遊んだり酔っぱらったりすること、並び立って楽しくて楽しくて仕方がないことであるし、京都で暮らすということの意味を充足するものであると思う。」

はてさて、そんな道すがらの京都を知るためには、どうやってきたらいいだろうか、自転車で乗って毎日京都の街を移動することが最適なことだと思ふ。毎日なのが肝心だ。自転車で乗って京都を自由に移動することによって、辻から辻、辻と辻との街の変化にふと心を揺さぶられたり、出会い頭の出会いに一瞬思考が止まったり…。京都の街をシーンごと切り替えていく、そんなダイナミズムを感じるのに、自転車は最高の移動手段だと思ふ。自動車、タクシーもバスもだめだ。京都という街は思っている以上に高低差がある。地図では想像もできないし、歩いていても分からない坂がいっぱいある。しかし自転車は、そんな高低差が自らの重力によって感ずることが出来る道具である。

また、不思議なことをいうと、歩いていても分からないが、自転車で乗って京都を縦横すると、(地下に流れる)水の流れが分かってくる。そんな水の流れとともに、不思議と流行る店や、商売の向き不向きや、なんでここの楓は紅葉するの、むこうの楓は赤くならないのかなどが分かってくる。

二三条会商店街の事務所のガラス越しに、まるで天狗のように通り過ぎていく数多くの自転車な人々を眺めながら、「京都ほど、スピード感や地場との重力感、そして季節感に自転車がフィットしている街は、世界を見渡してもないんじゃないか?」と思つたのと同時にふと考えたのは、自転車のスピードで神輿に近いんじゃないか? ということだ。

保伊戸 宵(ほいと、よい) / コロライター & テイター。祇園祭が終わって脱力感にみまわれ、夏風邪に、「まあ、それは神さんが休めようというんことや」と自分に言い聞かせている。08夏。某ファッション誌の秋号に「ヤス、ヌーベルバーグ、そしてゴルフファッションの関係」についての考察コラム(なんと3万字)を執筆。